



IT Holdings

2013年3月期 第3四半期決算説明資料

平成25年2月4日

ITホールディングス株式会社

Copyright © 2013 IT Holdings Corporation

ITホールディングスグループ



2013年3月期第3四半期(累計) 業績概要

2013年3月期通期 業績見通し

トピックス／参考資料

2013年3月期第3四半期(累計) 業績ハイライト

(単位:百万円)



IT Holdings

- 日本経済は海外経済の減速に伴う影響を受けたものの、震災復興需要等により緩やかに持ち直す動きが見られた。さらに2012年11月からは政権交代に伴う経済対策を見越した円安・株高が進む等、景気回復への期待感が高まる状況にあった。
- ITHDグループの事業環境は、海外経済の影響を受ける製造業等の一部の顧客では景気の先行きを懸念して投資を手控える動きもあったが、顧客のIT投資を再開する動きを受け、全体としては堅調に推移した。
- ITHDグループは前年同期比増収増益決算となった。
 売上高：産業ITサービスが牽引したほか金融ITサービスも緩やかに回復し、前年同期比増収(+4.7%)。
 営業利益：増収効果や生産性向上等に加え、前期に実施したオフィス移転・集約効果や子会社間の合併に伴う施策の効果の発現により、大幅に改善(前年同期比+61.1%)。

<売上高>

前年同期比: +10,516百万円(+4.7%)



2012年3月期第3四半期(累計) 2013年3月期第3四半期(累計)

<営業利益>

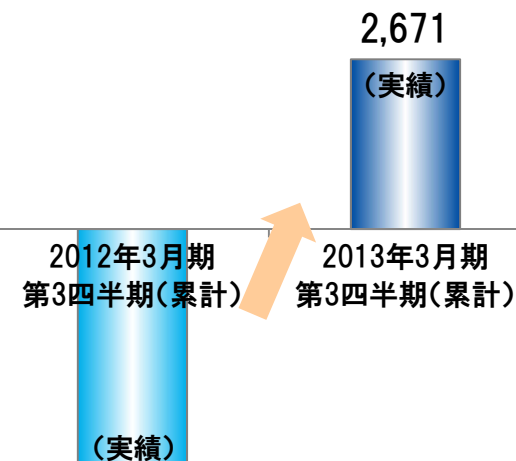
前年同期比: +2,937百万円(+61.1%)



2012年3月期第3四半期(累計) 2013年3月期第3四半期(累計)

<四半期純利益>

前年同期比: +6,400百万円



▲3,729

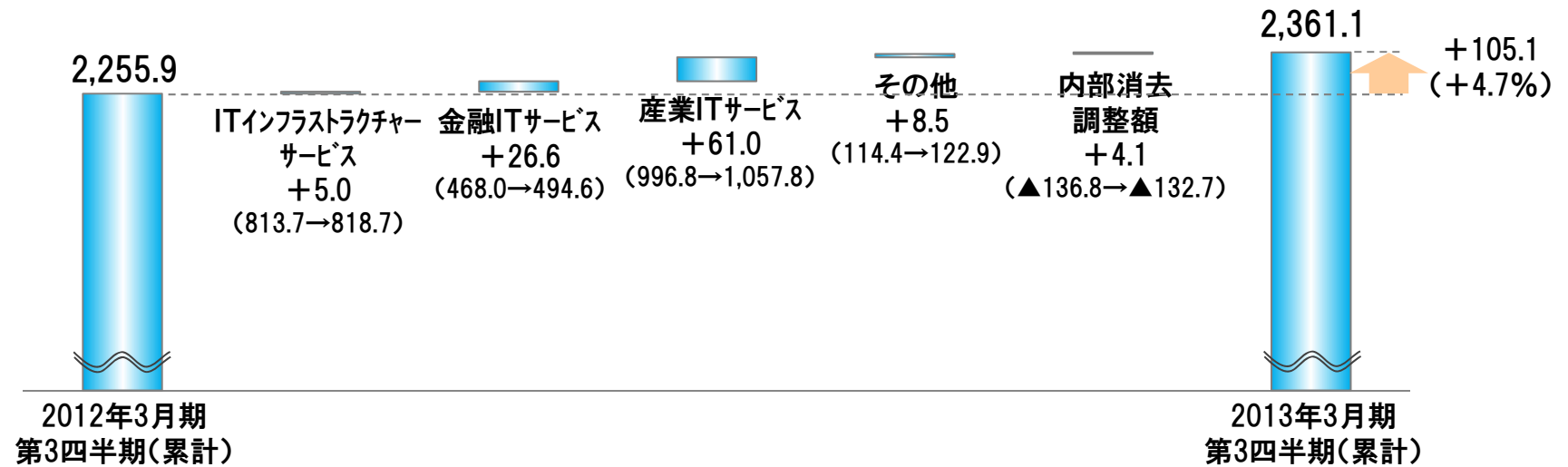
2013年3月期第3四半期(累計) 売上高・営業利益増減分析

(単位:億円)

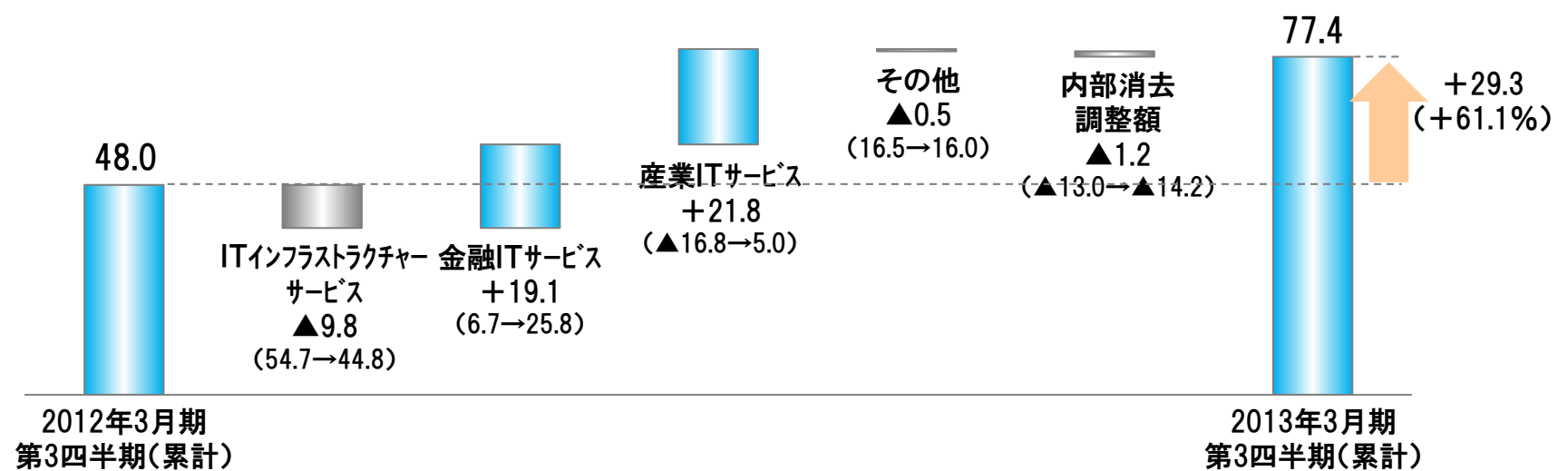


IT Holdings

<売上高>



<営業利益>



2013年3月期第3四半期(累計) 主要セグメント別損益状況

(単位:百万円)



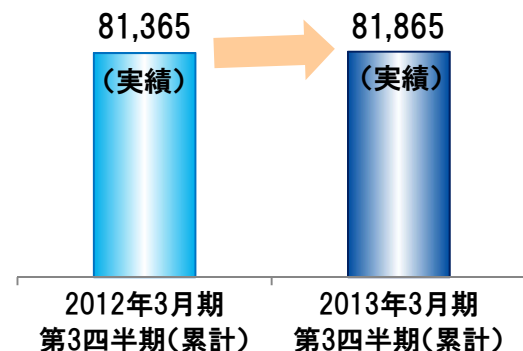
IT Holdings

ITインフラストラクチャーサービス

<売上高>

前年同期比: +500百万円(+0.6%)

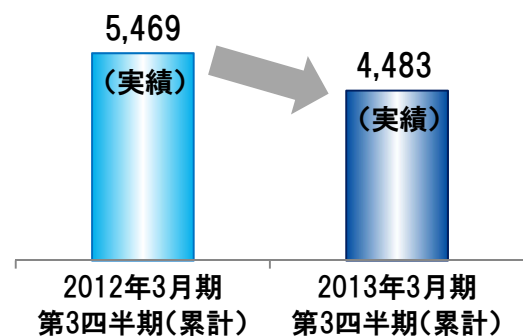
「GDC御殿山」等の次世代データセンター事業に対する需要増等から安定的に推移。



<営業利益>

前年同期比: ▲986百万円(▲18.0%)

需要増加に対応した先行投資費用や電力料値上げの影響等から前年同期を下回った。

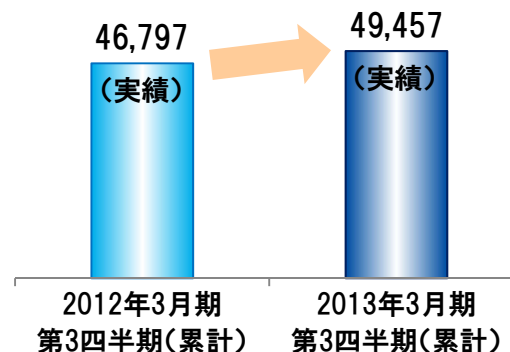


金融ITサービス

<売上高>

前年同期比: +2,660百万円(+5.7%)

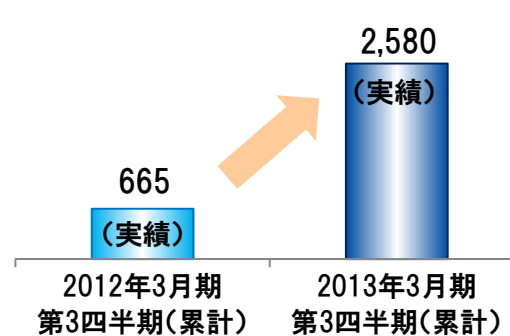
一部のクレジットカード会社におけるIT投資再開の動きが牽引し、増収。



<営業利益>

前年同期比: +1,915百万円(+288.0%)

増収効果やコスト削減効果等により、大幅に増益。

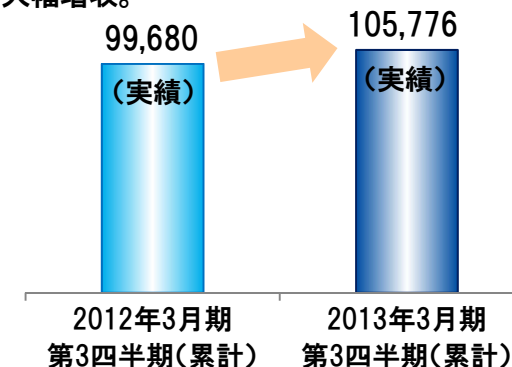


産業ITサービス

<売上高>

前年同期比: +6,096百万円(+6.1%)

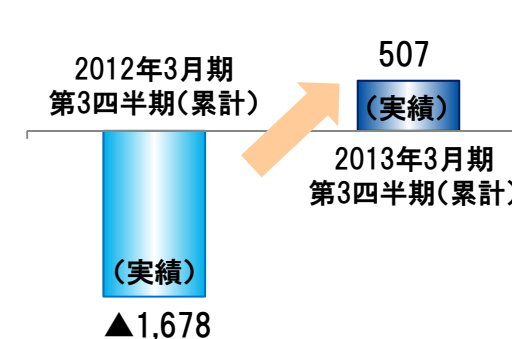
製造業大手顧客向け大型開発案件が牽引し、大幅増収。



<営業利益>

前年同期比: +2,185百万円

増収効果や不採算案件の抑制等により、利益水準が改善し、黒字化。



各セグメントの売上高はセグメント間の売上高を含んだ数値です。

2013年3月期第3四半期(累計) 受注状況

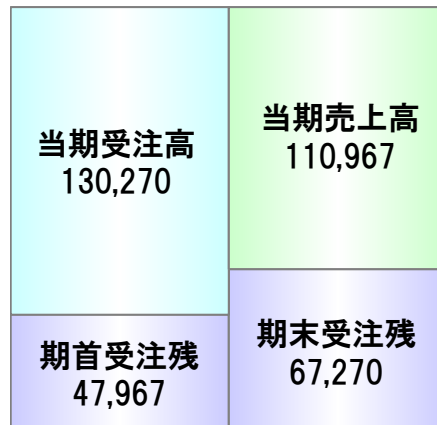
(単位:百万円)



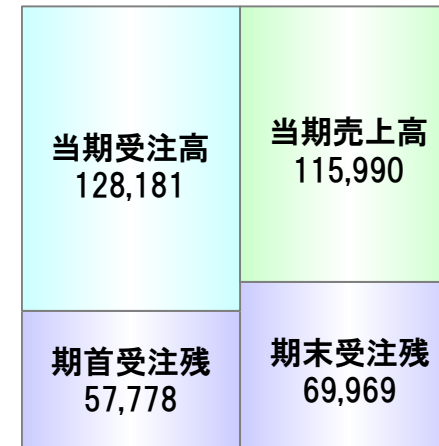
IT Holdings

受注高は産業分野の伸び悩みにより前年同期をやや下回るが、期末受注残は前年同期を上回る水準を確保。

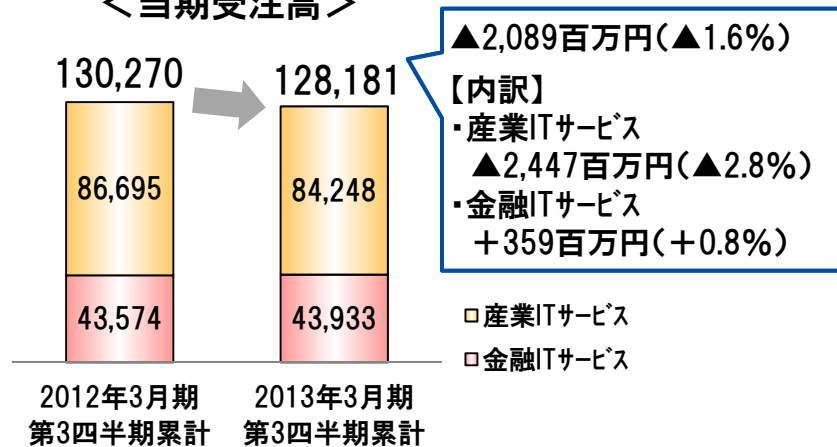
<2012年3月期第3四半期(累計)>



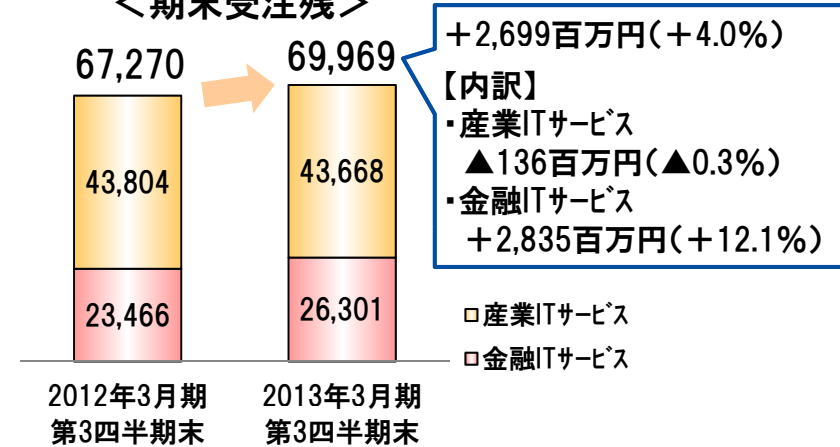
<2013年3月期第3四半期(累計)>



<当期受注高>



<期末受注残>



当期受注高・期末受注残・当期売上高は「ソフトウェア開発」に係るもののみ。

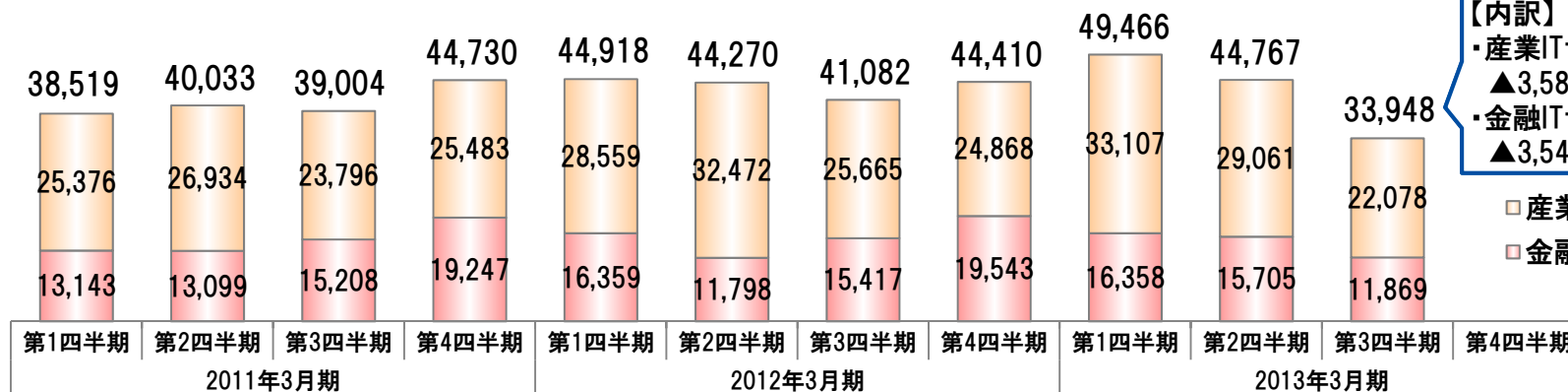
受注状況(四半期別推移)

(単位:百万円)



IT Holdings

<受注高>

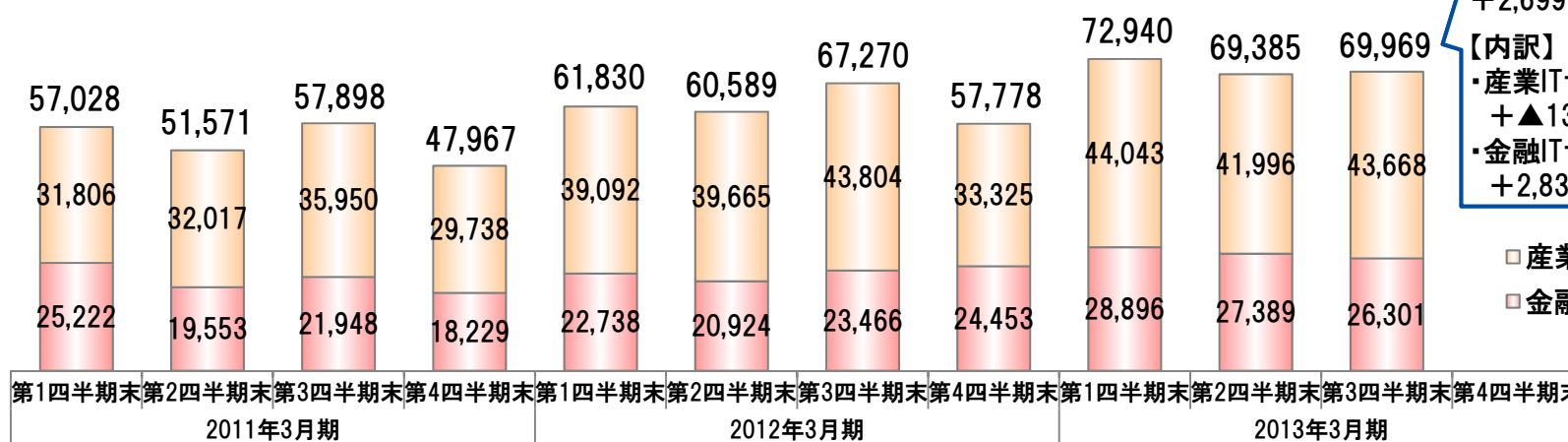


前年同期比
▲7,134百万円(▲17.4%)

【内訳】
・産業ITサービス
▲3,587百万円(▲14.0%)
・金融ITサービス
▲3,548百万円(▲23.0%)

□ 産業ITサービス
□ 金融ITサービス

<期末受注残>



前年同期比
+2,699百万円(+4.0%)

【内訳】
・産業ITサービス
+▲136百万円(▲0.3%)
・金融ITサービス
+2,835百万円(+12.1%)

□ 産業ITサービス
□ 金融ITサービス

当期受注高・当期末受注残・当期売上高は「ソフトウェア開発」に係るもののみ。



2013年3月期第3四半期(累計) 業績概要

2013年3月期通期 業績見通し

トピックス／参考資料

2013年3月期通期 業績予想ハイライト

(単位:百万円)

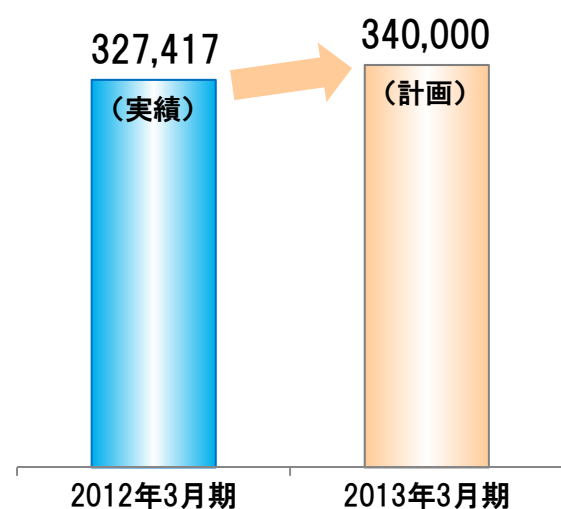


IT Holdings

- ▶ 当第3四半期連結累計期間の業績は概ね計画に沿って進捗しているため、現時点では業績予想を変更せず。
売上高：製造業の大手顧客向け大型開発案件、カードの持ち直しもあるが、製造業を中心とした産業分野において先行き不透明な景気動向等の影響を懸念。
営業利益：増収効果のほか、前期に実施したオフィス移転・集約の効果や子会社合併に伴う施策の効果が発現等がある一方、先行投資や電力料値上げの影響等を考慮した水準。
- ▶ 1株当たり配当金予想 年間21円(前期比+3円。中間7円、期末14円)の変更なし。連結配当性向は30.7%の見込み。

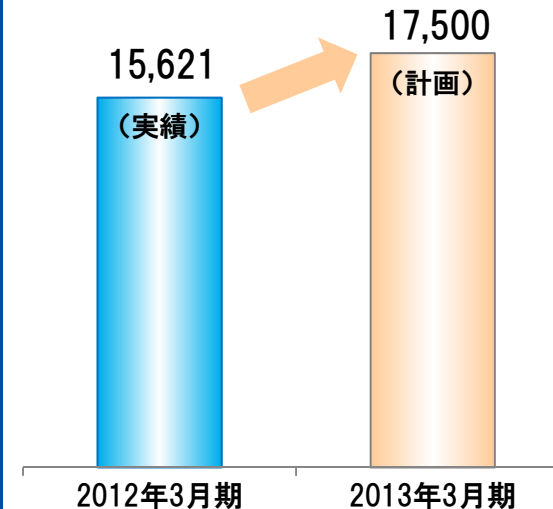
<売上高>

前期比: +12,583百万円(+3.8%)



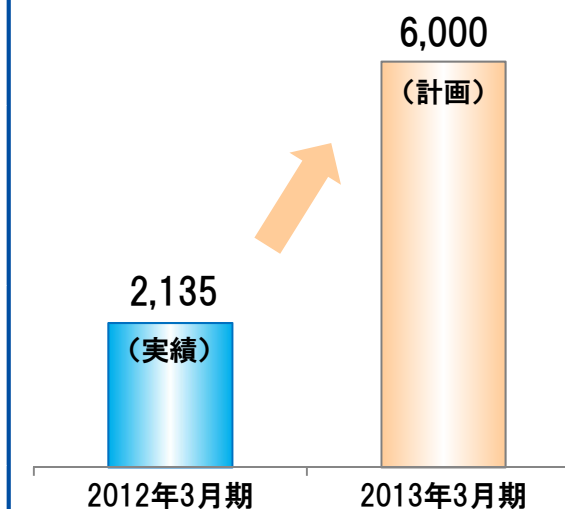
<営業利益>

前期比: +1,879百万円(+12.0%)



<当期純利益>

前期比: +3,865百万円(+181.0%)

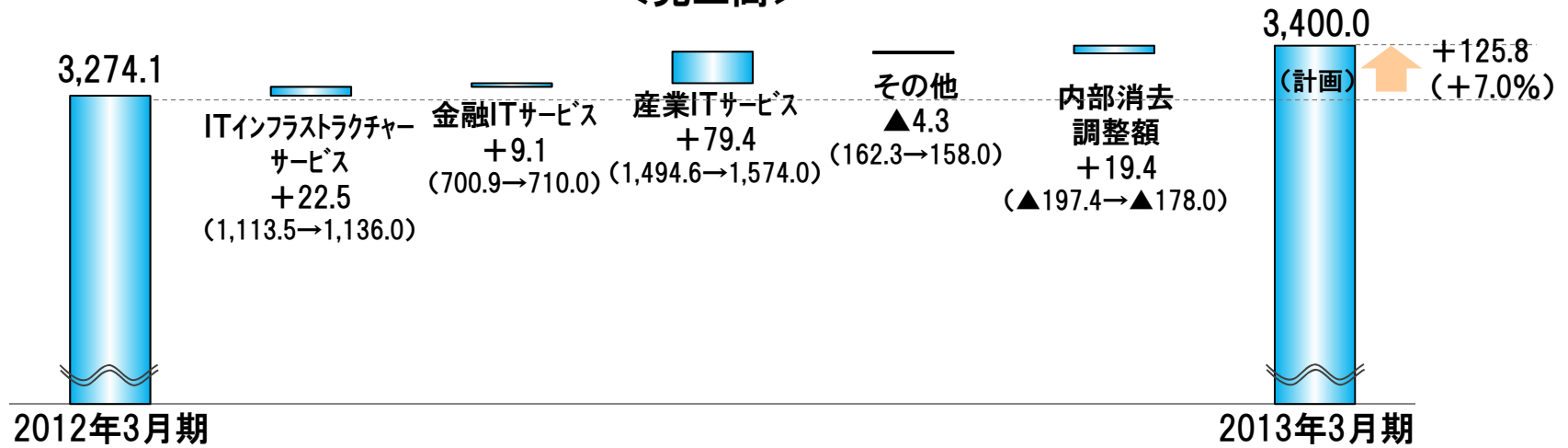


2013年3月期通期 売上高・営業利益増減分析

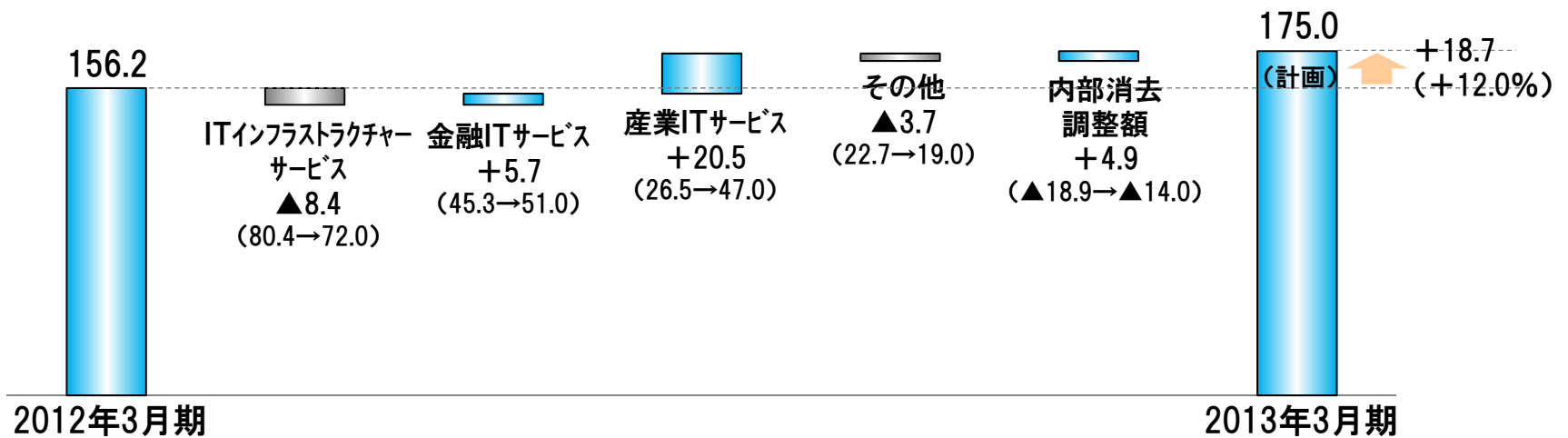
(単位:億円)



<売上高>



<営業利益>



2013年3月期通期 主要セグメント別損益状況予想

(単位:百万円)



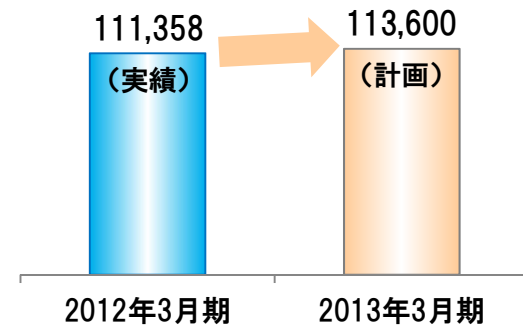
IT Holdings

ITインフラストラクチャーサービス

<売上高>

前期比: +2,242百万円(+2.0%)

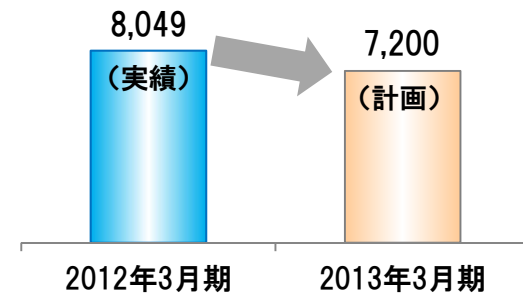
BCP・DR需要等に伴うGDC御殿山の稼働向上により増収を見込む。



<営業利益>

前期比: ▲849百万円(▲10.5%)

GDC御殿山が稼働向上により改善するが、電力料値上げの影響により、減益を見込む。

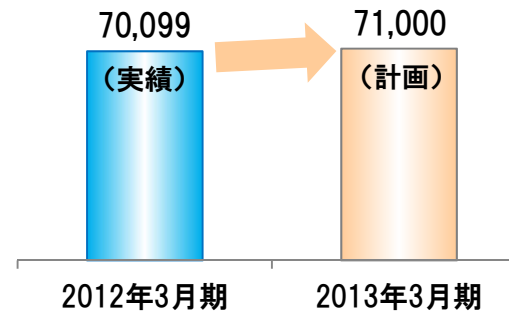


金融ITサービス

<売上高>

前期比: +901百万円(+1.3%)

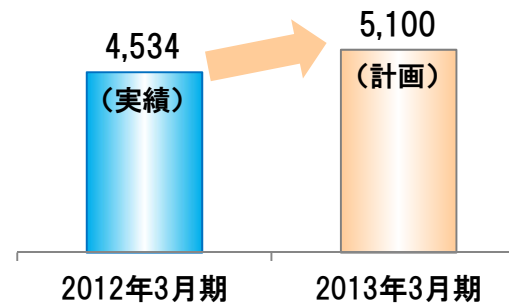
カードの持ち直し等により増収を見込む。



<営業利益>

前期比: +566百万円(+12.5%)

カードの持ち直しに伴う稼働率向上等により増益を見込む。

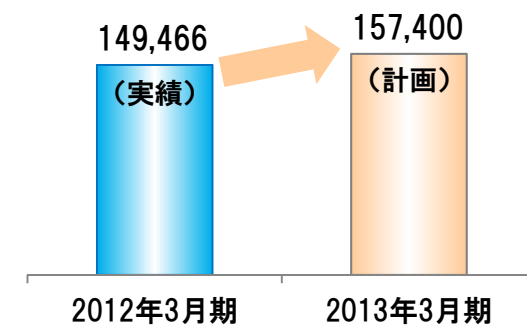


産業ITサービス

<売上高>

前期比: +7,934百万円(+5.3%)

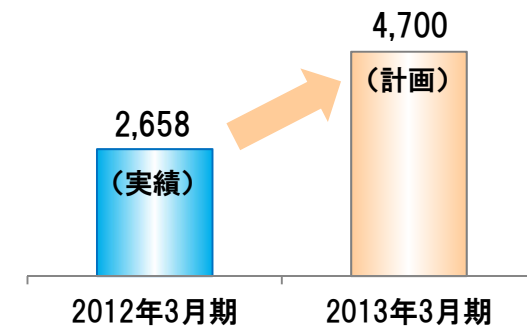
主要顧客向け大型案件の拡大が寄与するほか、産業分野の拡大継続により増収を見込む。



<営業利益>

前期比: +2,042百万円(+76.8%)

増収効果等により、増益を見込む。



各セグメントの売上高はセグメント間の売上高を含んだ数値です。



2013年3月期第3四半期(累計) 業績概要

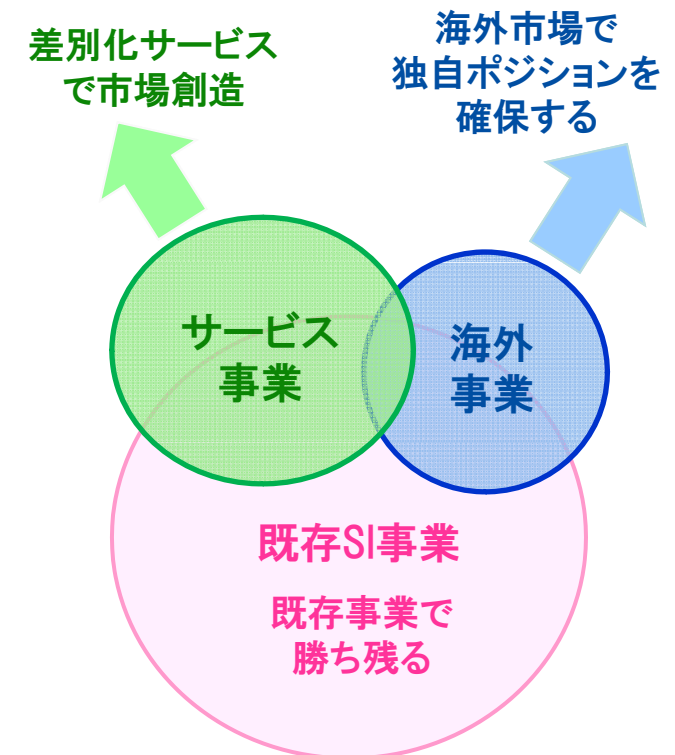
2013年3月期通期 業績見通し

トピックス／参考資料

➤「第2次中期経営計画 基本コンセプト」・「2013年3月期 ITHDグループ経営方針」・「目指す事業ドメイン」

第2次中期経営計画 基本コンセプト	2013年3月期 ITHDグループ経営方針
<p>トップライン重視</p>	<p>本格的なV字回復の年度と位置付け、売上高拡大を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループフォーメーションの進化(コア事業、成長分野に注力できる体制構築) ・顧客基盤の再構築、成長企業/成長分野への取組みを強化 ・営業の改革を図る
<p>as One Company</p>	<p>グループ全体最適に向け、一体感を醸成する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーポレート機能の整理集約 ・先行投資を可能にする強靱な財務基盤の確立 ・商品ブランド・コーポレートブランドの強化 ・次期グループ経営管理システムの構築 ・ITHDカレッジの活動開始
<p>進取果敢</p>	<p>事業面の変革を行う サービス化・グローバル化へ踏み出す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市場起点サービス展開のためのマーケティング機能を強化 ・ASEANを中心にグローバル化を加速 ・投資委員会の設置

＜目指す事業ドメイン＞



2013年3月期第3四半期 グループフォーメーション再編の進捗状況



IT Holdings

第2次中期経営計画
基本コンセプト

トップライン重視

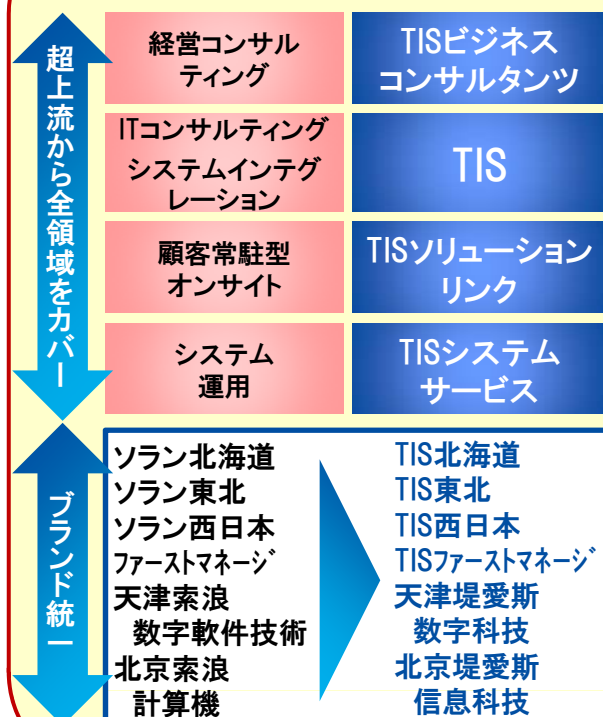
as One Company

進取果敢

➤ **TIS:グループフォーメーション再編とブランド統一による成長戦略の推進**
事業ポートフォリオの拡充と機能集約によって顧客のITライフサイクル全般に幅広く対応できる体制を強化するとともに、グループのブランドと一体感を強化。

➤ **AJS:放射線部門システム事業のグループ外への譲渡決定**

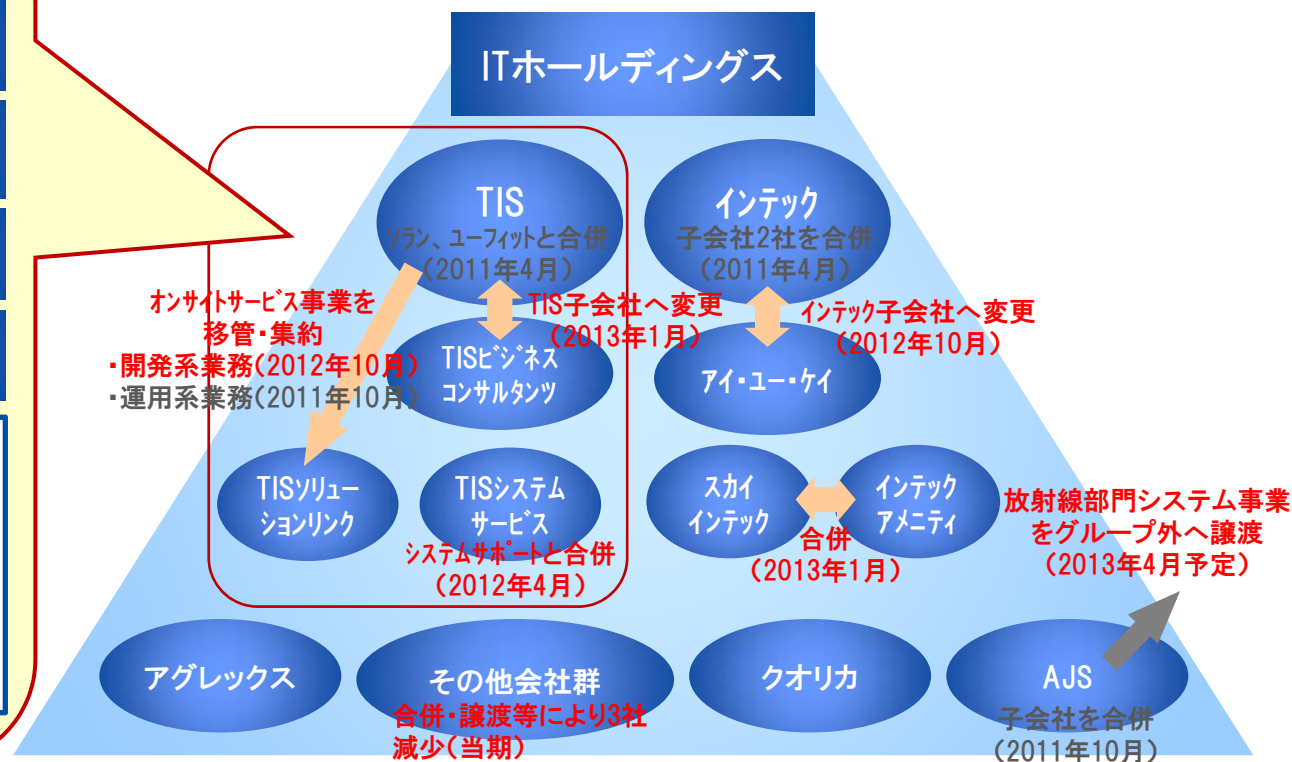
TISグループの成長戦略推進体制



社名変更は2013年3月・4月に実施予定。

＜コア事業への集中、ビジネスモデル毎の集約を推進＞

2010年3月末:55社 → 2012年12月末:44社(▲11社)





第2次中期経営計画
基本コンセプト

トップライン重視

as One Company

進取果敢

①グループフォーメーションの進化

- ・コア事業、成長分野に注力できる体制構築
→グループフォーメーション再編を順次実施/検討中。

②“グループ共通の精神”の醸成

- ・ITHDカレッジの創設
→「as One Company」に向けた一体感醸成プログラム「IT Holdings Group College」を開始。

③先行投資を可能にする強靱な財務基盤の確立

- ・連結納税
→連結納税制度検討プロジェクトを開始。中間報告を実施(2012年9月)。
- ・CMS一体運用
→CMS一体運用検討プロジェクトを開始。

④コーポレート機能の整理集約

- ・シェアード業務の範囲拡大と質的向上
→グループ再編に伴う諸制度統合に向けて業務・システム集約を推進中。
→グループBCP策定、災害対策備蓄品の共同調達等を実施中。

⑤商品ブランド・コーポレートブランドの強化

- ・サービス名の統一化
→グループ社内外の有識者へのヒヤリング等を踏まえ、ブランド委員会で検討中。



第2次中期経営計画
基本コンセプト

トップライン重視

as One Company

進取果敢

▶TIS:ビッグデータ解析プラットフォーム『C-Finder』の共同開発

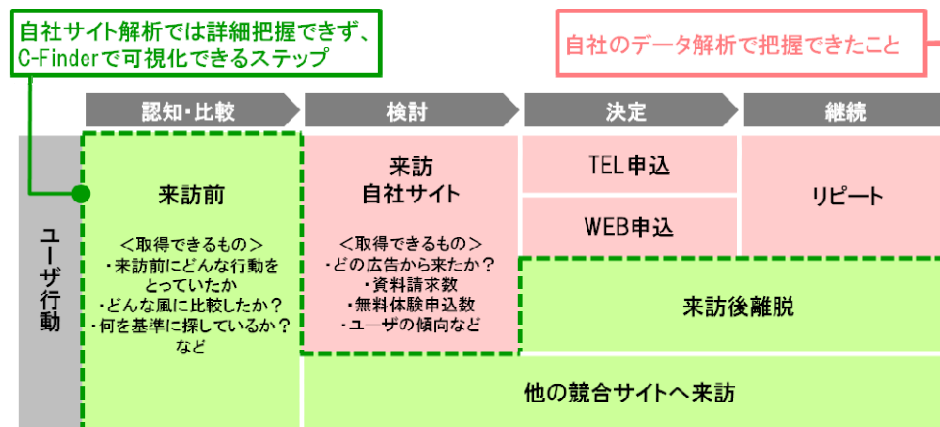
企業のマーケティング活動において重要性を増すビッグデータ関連ビジネスへの取組みを推進。10万人を超えるアクセスログデータ・1万人のアンケートデータ(株式会社オプト保有)を活用し、多様化する消費者行動を可視化。

データベース管理からデータの高速抽出、分析、集計のアウトプットまでを一元管理するビッグデータ解析プラットフォームの開発・販売・導入サポートの共同実施について株式会社オプト及び株式会社数理システムと合意。

＜C-Finderイメージ＞ データ解析における工程を一元管理



＜C-Finderが可視化可能な消費者行動のイメージ＞



本事例で「2012下半期 AWSパートナーアワード(ビッグデータ部門)」を受賞。

「C-Finder」の基盤にアマゾン ウェブ サービス(AWS)を有効活用し、短期間、低コストでの大規模データの解析基盤構築を実現。本事例における、クラウドならでのアジリティとビッグデータ解析基盤としての先進的なソリューション提供が高く評価され、アマゾン データ サービス ジャパン株式会社により、アマゾン ウェブ サービス (AWS) のパートナーに贈られる「2012下半期 AWS パートナーアワード(ビッグデータ部門)」を受賞。



第2次中期経営計画
基本コンセプト

トップライン重視

as One Company

進取果敢

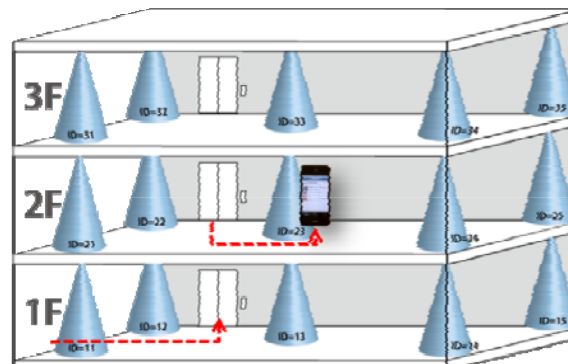
▶インテック:ハイブリッド方式の『スマートフォン向け屋内位置推定技術』の独自開発
スマートフォンの急速な普及に伴い、拡大の見込まれるO2O(Online to Offline)関連ビジネスへの
取組みを推進。GPS衛星の電波が届かない屋内や地下空間での位置推定を高精度で実現。

スマートフォンの内蔵センサーとマイクを活用した世界初のハイブリッド方式により、高精度(誤差1メートル~数
メートル)の屋内位置推定技術を独自開発(特許出願中)。屋内階層の識別も実現。
屋内位置情報と連動した新たな広告メディア基盤としての活用に向け、実証実験やイベント出展等を展開中。

＜ハイブリッド方式による屋内位置推定技術の仕組み＞



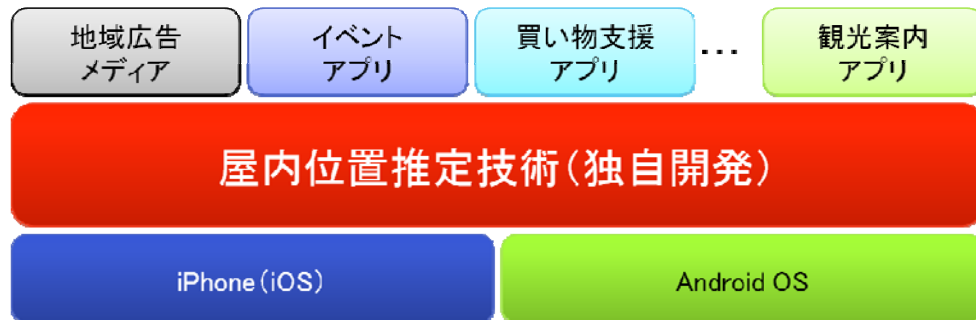
＜屋内階層識別の仕組み＞



各階の出入り口付近を通行する際に位置補正信号を取得し、そのIDから階層情報を取得。
例)ID=23
・階数:2階
・X座標:5
・Y座標:6

※信号到達率や平均到達率、室内環境で位置補正信号が検出できない場合

＜本技術の位置付けと応用先(例)＞



＜本技術の活用イメージ(例)＞

- ・イベント、キャンペーン紹介
(チラシを見ていない方への情報提供)
- ・プッシュ型クーポン配布
(買い物中のお客様への購入訴求)
- ・商品検索
(売場誘導の効率化/セルフサービス化)



第2次中期経営計画
基本コンセプト

トップライン重視

as One Company

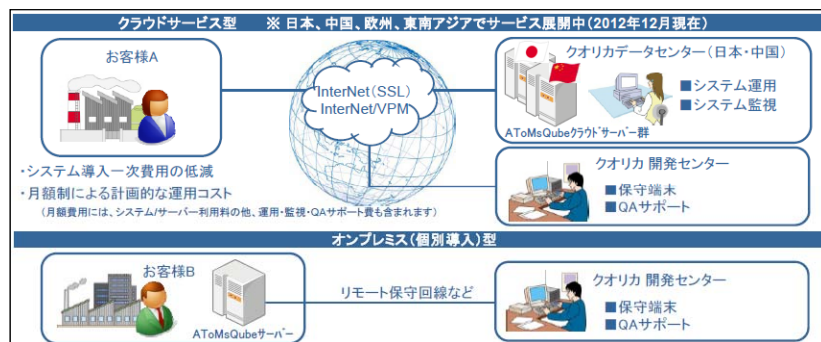
進取果敢

▶クオリカ:クラウド対応生産管理システム「AToMsQube」の「JISA Awards 2013」受賞
一般社団法人情報サービス産業協会(JISA)から受賞。「独創性が高く、国際的に通用するシステム」として評価。

▶クオリカ:次世代オフィス「Thin Office」の平成24年度IT賞(フロンティア賞)の受賞
社団法人企業情報化協会(IT協会)から受賞。生産性向上に向けたIT環境の実現を評価。

AToMsQube 【クラウド対応生産管理システム】

中国等での生産拡大に伴う生産管理システムの導入・強化ニーズを見据え、グローバル展開を念頭に置いた設計思想(多言語・クラウド対応)で開発。主要顧客向けシステム開発で培った技術・ノウハウを織込み。
⇒日系製造業を中心に国内外56社60拠点の顧客が採用。



<表彰式の模様>



Thin Office 【クラウド型デスクトップサービス】
Virtual Desktop Infrastructure

競争力強化のためのワークスタイル革新を目指し、最新のICT技術(仮想デスクトップ技術・ユニファイドコミュニケーション・ゼロクライアント)を活用して次世代オフィス環境を構築。コラボレーション、セキュリティ、BCPを強化。
⇒本ノウハウ活用のクラウド型デスクトップサービス「Thin Office VDI」を外部提供中。



<IT特別賞を受賞したクオリカのオフィス>



2013年3月期第3四半期 ITHDグループ プレスリリース/お知らせ一覧

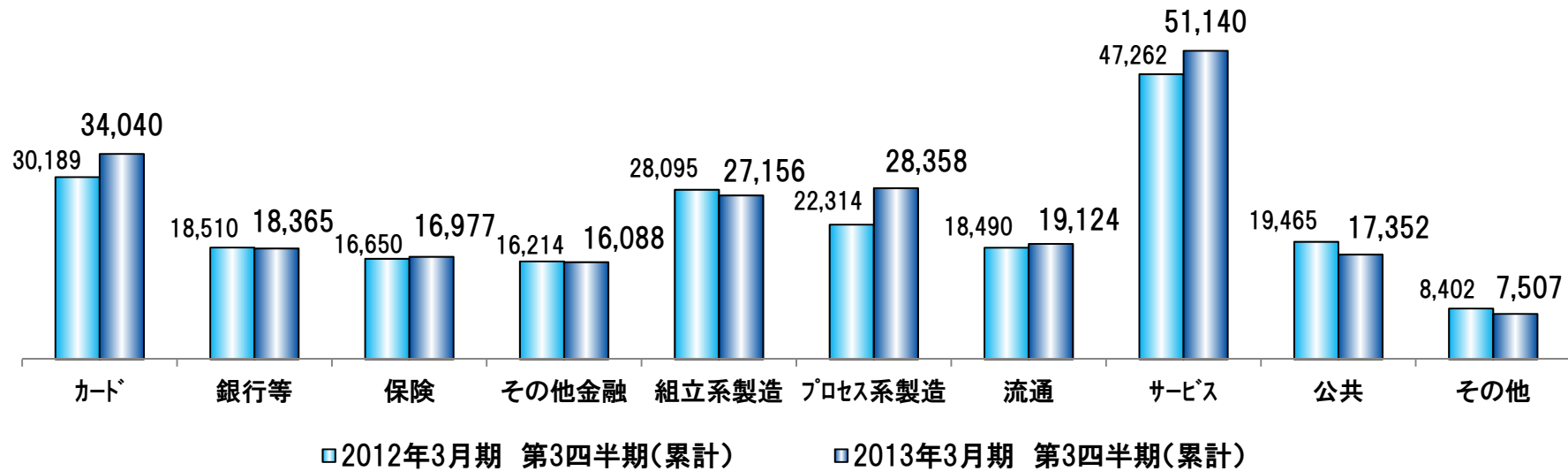


IT Holdings

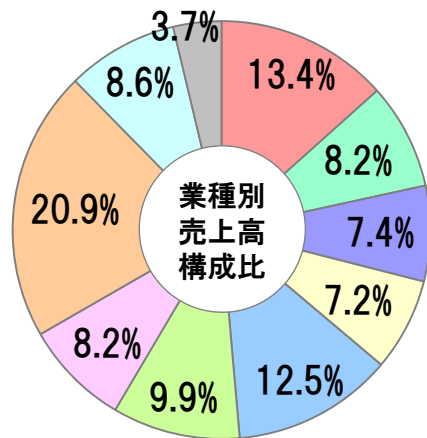
発表日付	タイトル
2012/10/9	TIS、「アマゾン ウェブ サービス」を活用する「TISクラウドインテグレーション for AWS」の新メニューを拡充(TIS)
2012/10/10	TIS、初期費用不要で月額1,575円(1ID)から利用できるSaaS型リモートアクセスサービス『RemoteWorks/リモートワークス』の提供を開始(TIS)
2012/10/15	TIS、開発者向けPaaS『eXcale』ベータ版の提供を開始(TIS)
2012/10/17	TISとインフォアが中堅規模および海外展開する製造業向けの生産管理ソリューション分野で協業(TIS)
2012/10/18	インテック、より安全・簡単・便利なSaaS利用環境をサポートする統合認証サービス「EINS/IAM」の提供を開始(インテック)
2012/10/22	TIS、『アジアマルチプラットフォームサービス』を提供開始(TIS)
2012/10/25	TIS、連結会計パッケージ「Oracle HFM」をプライベートクラウドで提供(TIS)
2012/10/29	TISとソフトバンクテレコム、データセンターサービスで協業(TIS)
2012/10/30	クオリカ、Windows Embedded Standard 7搭載のタブレット端末「WebLightTab」を発売(クオリカ)
2012/10/30	TISがプライベート型のクラウドサービスのインフラにイージェネラの「PAN Manager」を採用(TIS)
2012/10/31	会社分割(簡易吸収分割)による当社子会社TISへの子会社管理事業(一部)の承継に関するお知らせ
2012/10/31	インテック、関電システムソリューションズとの協業で「大阪第2DC」を開業(インテック)
2012/11/6	インテックの統合ログ管理製品「快速サーチャーLogRevi(ログレビ)」に新機能を追加(インテック)
2012/11/7	TIS、大阪市中心部に『心斎橋gDC-EX』を新設(TIS)
2012/11/21	TIS、三菱石油へSaaS型EDI『TIS EDI Ondemand Service by ACMS』を提供(TIS)
2012/11/22	個人投資家を対象とした投資及び景気動向に関する10月度「定点観測レポート」発表(キーポート・ソリューションズ)
2012/11/26	GPSの届かない屋内も、スマホで誘導(インテック)
2012/11/27	クオリカの次世代オフィス「Thin Office」が平成24年度IT賞「IT特別賞(フロンティア賞)」を受賞(クオリカ)
2012/11/27	子会社の商号変更に関するお知らせ(TIS)
2012/11/28	仮想化環境の監視・管理ツールMoonWalker Version2.4をリリース(クラウド・スコープ・テクノロジーズ)
2012/12/5	ビッグデータ解析プラットフォーム『C-Finder』を共同開発(TIS)
2012/12/19	TISがBBSecの「MSS」を活用し、データセンターのセキュリティ運用管理サービスのメニューを拡張(TIS)
2012/12/26	パスの見える化ツール「Hexa」が「JP1 Certified」製品に認定(クラウド・スコープ・テクノロジーズ)

【参考】2013年3月期第3四半期(累計) 業種別売上高

(単位:百万円)

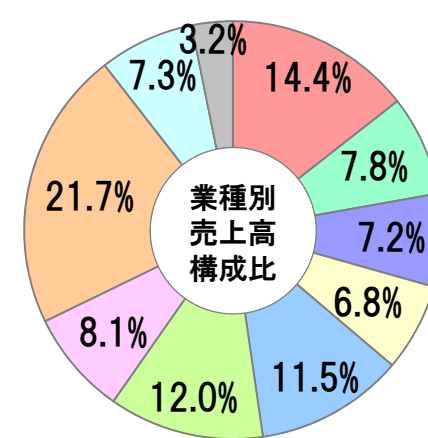


<2012年3月期第3四半期(累計)>



金融分野:36.2% 産業分野:51.5%
公共分野:8.6% その他:3.7%

<2013年3月期第3四半期(累計)>

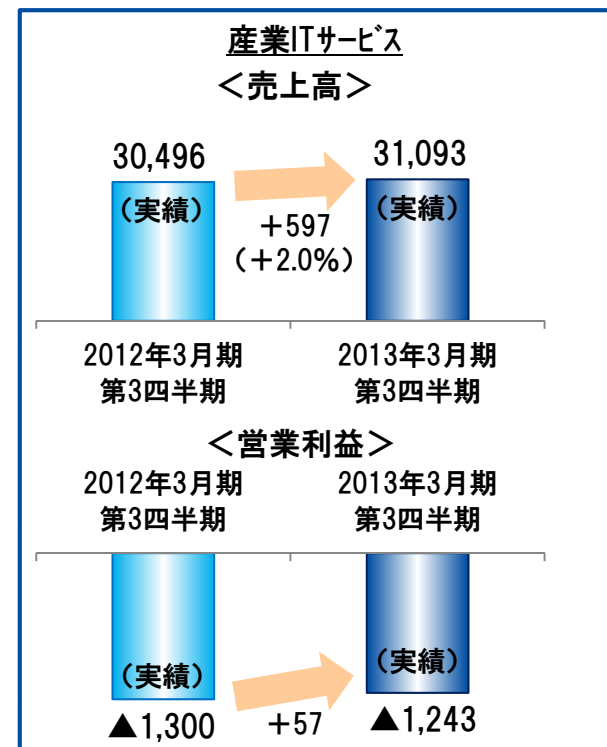
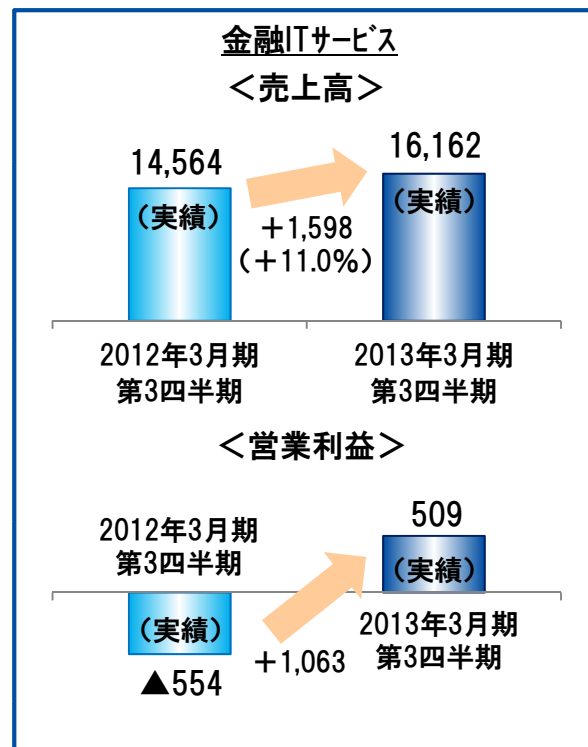
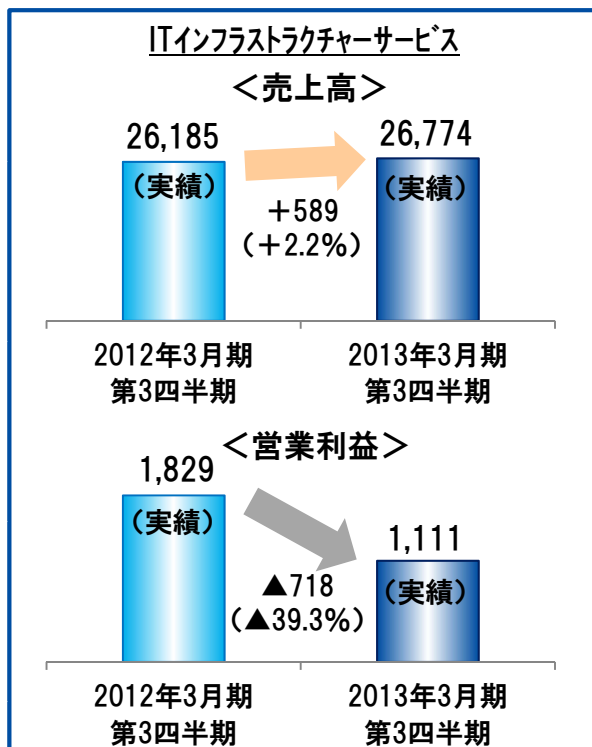
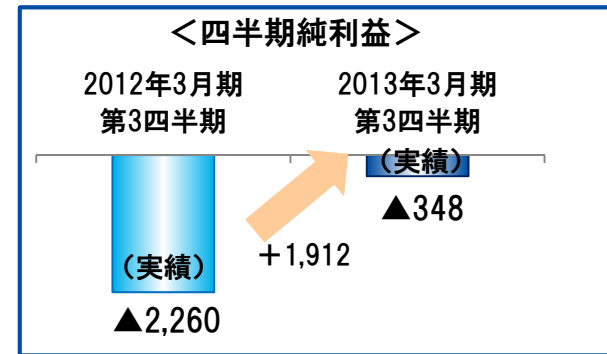
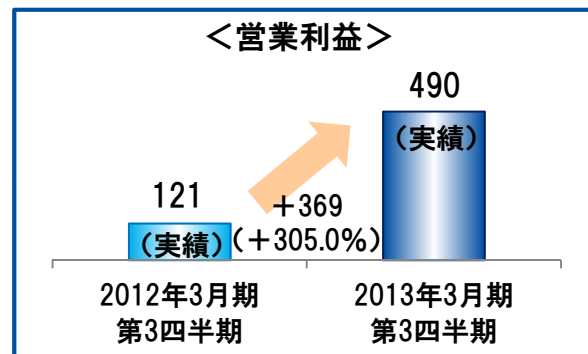
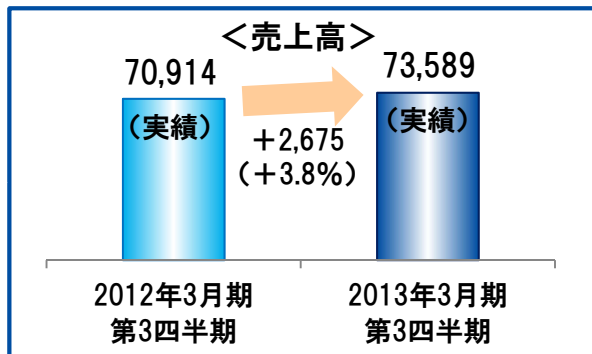


金融分野:36.2% 産業分野:53.3%
公共分野:7.3% その他:3.2%

【参考】2013年3月期第3四半期 業績ハイライト・主要セグメント別損益 (単位:百万円)



IT Holdings



各セグメントの売上高はセグメント間の売上高を含んだ数値です。



IT Holdings

(ご注意事項)

- ・本資料ではITホールディングスを略称名(ITHD)にて記載しています。
- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、ITHDグループ(ITHDおよびグループ会社)が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- ・各四半期会計期間(3カ月)の数値は累計期間の差引により算出しています。